



『白樺』創刊110年記念 市制施行50周年記念

我孫子の風景展

志賀直哉たち白樺派が去った後の我孫子は、原田京平を中心とする春陽会の若手画家たちが風景を描く時代を迎えます。「我孫子・白樺派」を継ぐ者原田京平の我孫子の風景画を中心に、大正から昭和30年代までの我孫子の風景画を紹介する展覧会です。

期間 11月11日(水)～2021(令和3)年2月28日(日)

場所 白樺文学館

内容(コンセプト)

- ・資料点数(風景画20点程度、関連資料ほかで約60点程度を予定)
- ・白樺派が暮らした頃(主に大正後期～昭和初期)の風景画の展覧会。
- ・志賀直哉と交流のあった画家・歌人原田京平の油彩画、水墨画を中心とした展覧会。
- ・風景画で描いているのは主に沼沿いのハケの道(白樺文学館の前の道)と台地の上、崖上(現在の寿、高野山などと思われる)の風景と思われる。
- ・100年前の我孫子の風景を伝えてくれる資料は一部絵葉書や古写真がみられるが、「色彩」をもって伝えてくれる資料をこれだけ用いて展示するのは今回が初。
- ・市制50周年として100年前の我孫子の風景を振り返り、次の50年に向けた街づくり、景観のあり方を考えていただきたい。

入館料 300円(高校・大学生200円、中学生以下無料)

3館(鳥の博物館・杉村楚人冠記念館・白樺文学館)共通券 大人500円 高・大生400円

2館(杉村楚人冠記念館・白樺文学館)共通年間パスポート 2000円

関連イベント

我孫子市制50周年・我孫子を知る一年「我孫子の風景を読む—志賀直哉たちが見た我孫子の景観—」

令和3年1月24日 午後2時から 生涯学習センターアビスタホール

講師 小山泰弘氏(長野県林業総合センター林業専門技術員 農学博士)

志賀直哉をはじめとする白樺派の人が観て感じていた100年前の我孫子の風景を、原田京平の風景画から読み解くとともに、50年を迎えた我孫子市政で形成された景観の未来を樹木の目線から想像していければと思います。

定員 50人(要申込)

費用 無料(要入館料)

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会生涯学習部
文化・スポーツ課 白樺文学館
担当 稲村

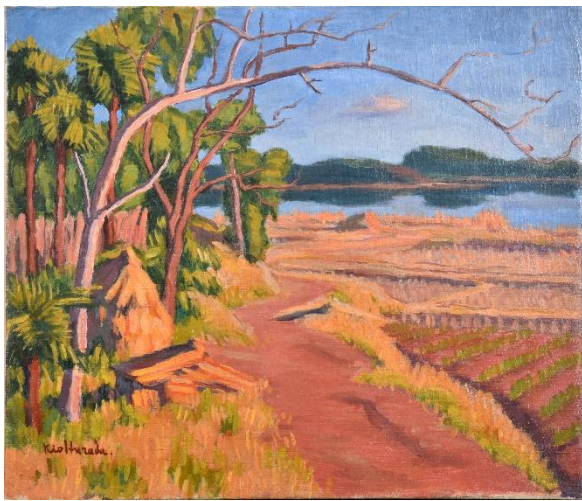
☎04-7185-2192

資料

原田京平… 明治末から昭和戦前期の画家、歌人。1895(明治 28)年静岡県生まれ。1913(大正 2)年 18 歳で上京、太平洋画会研究所にて洋画家の道を歩み出す。1914(大正 3)年再興日本美術院洋画部に属し、以後「恭平」「聚文」「和周」という号を用いる。1921(大正 10)年 10 月結婚したばかりの妻睦を連れて我孫子別荘地の先駆けである島田久兵衛別荘に移住。翌年、再興日本美術院洋画部と岸田劉生の草土社が合流し出来たばかりの春陽会に参加。志賀直哉(我孫子滞在は 1915.9~1923.3)との交流を通じて 1923(大正 12)年 3 月以降は志賀邸の母屋に移住、留守居役となる。1928(昭和 3)年 3 月東京世田谷へ移住。台湾・朝鮮半島、瀬戸内海、九州地方などを回るなど積極的に活動するも 1936(昭和 11)年 1 月 16 日 40 歳で肝臓がんのため死去。



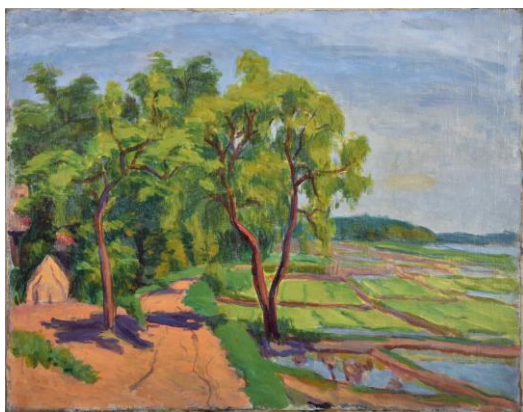
展示予定油彩画紹介 (一部)



10 原田京平「ハケの道と手賀沼」(1924)



13 原田京平「我孫子風景」(1928)



35 原田京平「ハケの道と手賀沼 3」



46 原田京平「林 (我孫子風景)」

原田京平関係資料は、毎年度資料修復を実施しています。今回展示予定の作品のほとんどが修復済の資料として、保存・展示に耐えられるようにしたものです。